

はじめに

本市水道は大正7年10月に兵庫県下では神戸市について誕生し、1日最大配水量3,750 m³、給水人口11,000人として給水を開始しました。その後、都市の発展に伴う人口や工場の増加に対処すべく、7期にわたる拡張事業を進めながら安定供給に務め、工業都市尼崎市としての市勢の発展に寄与してまいりました。

一方、昭和45年頃に琵琶湖で発生するプランクトンの出すかび臭が、本市水道水にまで影響を及ぼす状況となったため、昭和48年にわが国初のオゾンによるかび臭処理施設を建設し、いち早く市民の信頼回復に努めてまいりました。

しかし、なお市民皆さまの安全で良質な水への要求が強まる中で、神崎浄水場ではオゾン・活性炭による高度浄水処理施設を建設し、平成10年7月に通水を開始しました。さらに、平成12年7月には本市に用水供給を行う阪神水道企業団の全浄水場が、高度浄水処理の通水を開始したことにより、市内全域に高度浄水処理水を供給するに至りました。

また、市民の皆さまに安全で良質な水道水を安心してご使用いただくために、「水質検査計画」を年度ごとに作成し、この計画に基づいて、水源から各ご家庭に届くまでの各段階で水質検査を定期的を実施し、安全で高品質な水道水をお届けしていることを確認しています。

この水質試験年報は、水質検査計画に基づいて実施した検査結果及び各種調査ならびに工業用水試験成績など、平成27年度に神崎浄水場が実施した水質試験成績をとりまとめたものです。